

## 日本東洋美術史の資料学的研究(シ02)

**目的** 近世以前の日本を含む東アジア地域における美術作品を対象として、基礎的な調査研究を行い、研究の基盤となる資料の整備を行う。併せて、これにかかる国内外の研究交流を推進する。

- 成果**
1. 美術史研究のためのコンテンツ（日本美術史年記資料集成）を作成するため1999（平成11）年以降の展覧会図録から年記のある作品の資料を順次収集し、データベースソフトウェア FileMaker Pro を使用して入力を行った。
  2. 下記「発表」のとおり本プロジェクトにかかる研究会を行った。
  3. 個人蔵「四条河原遊楽図屏風」のほか、各地に所蔵される「遊行上人絵伝」について複数回の調査を行った。
  4. 仏教美術等の光学的手法による共同研究を東京国立博物館と開始し、博物館所蔵の平安仏画につき、可視光のみならず、近赤外線、蛍光、蛍光X線、透過X線などによる多角的光学調査に着手した。



「日本絵画史年記資料集成」データベース画面

**論文**・姚崇新(濱田瑞美訳)「コートン・ドモコ仏寺跡出土千手千眼観音壁画の初歩的考察—敦煌との比較を兼ねて—」『美術研究』422 pp.1-28 17.8

・津田徹英「詞書の筆跡からみた金蓮寺本『遊行上人縁起絵』の位相」『美術研究』423 pp.1-43 17.1

・山下善也「狩野山雪と「和」の画題—「武家相撲絵巻」をめぐる—」『美術研究』423 pp.67-94 17.1

**発表**・安永拓世「呉春筆「白梅図屏風」の史的 position」文化財情報資料部研究会 17.5.30

・綿田稔「橋本雄「雪舟入明再考」に寄せて」文化財情報資料部研究会 17.8.7

・津田徹英「資料紹介 滋賀・浄厳院蔵 木造 釈迦如来立像」文化財情報資料部研究会 17.10.24

・佐藤有希子「京都・青蓮院伝来の二体の毘沙門天立像に関する一考察」文化財情報資料部研究会 17.10.24

・増田政史「中宮寺文殊菩薩立像に関する一考察」文化財情報資料部研究会 18.2.27

**刊行物**・東京文化財研究所編『鏡神社所蔵 重要文化財 絹本着色 楊柳観音像 光学調査報告書』18.3

**研究組織** ○小林達朗、津田徹英、二神葉子、小林公治、塩谷純、江村知子、安永拓世、小野真由美（以上、文化財情報資料部）、近松鴻二（客員研究員）